

中根小の自然

第7号 2008年7月8日

< 鹿嶋神社で見かけた植物～その1 > 6月27日、梅雨(つゆ)の晴れ間に、学校北の鹿嶋神社とその周辺を歩いてきました。神社をと考えたのは、神社やお寺などの林は比較的保護されていて、昔からの林が残っている場合が多いからです。では、神社の入り口にかまえているカヤから。

カヤ(イチイ科 カヤ属) *Torreya nucifera*



鹿嶋神社のカヤ(右上は今年の実の花、右下は去年の実の花がふくらんできた。一年半かけて種子ができる。)



上の写真でふくらんできている緑色の実のように見えるのは種子です。モモブドウも果実の中に種子がありますが、カヤや次のイチヨウなどは種子がむき出しになっているのです。裸子(らし)植物といって、中学校で勉強します。



左の写真は春に撮ったカヤのオスの花とメスの花。花粉は風で運ばれますが、メスの花からはごらんの通り水てきのようなものが出てきて、これが花粉を受け止めて中に運んでくれるのです。うまくできていますね。種子から油をとったり食用にしたそうで、碁盤としても珍重されてカヤのオスの花(上)とメスの花(下) 2008/5/1つくば市 います。

イチヨウ(イチヨウ科 イチヨウ属) *Ginkgo biloba*



イチヨウの未熟な種子がたくさん落ちていました。これも果実のように見えますが、種子なのです。この時期(梅雨時)は、イチヨウに限らずいろいろ

いろいろな果実(や種子)が未熟なまま落ちているのを見かけます。日照不足などで種子や果実にまわる養分が不足するのが主な原因で、6月に起こることが多いのでジューンドロップ(6月の落果)などと呼ばれます。